

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：13301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際活動支援班）

研究期間：2015～2022

課題番号：15K21756

研究課題名（和文）稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 -

研究課題名（英文）Rice Farming and Chinese Civilization: Renovation of Integrated Studies of Rice-based Civilizations.

研究代表者

中村 慎一（NAKAMURA, Shinichi）

金沢大学・その他部局等・その他

研究者番号：80237403

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 46,500,000円

研究成果の概要（和文）：国際学会では2年度にわたりセッションを開催した。2019年度までは海外から複数名の研究者を招聘し、国際シンポジウムや講演会を開催した。また、各分野の主要雑誌に多くの英語論文を発表し、作成過程で研究者間の調整等で大きな役割を果たした。その他「田螺山キャンプ」という日本や中国、アメリカなどのさまざまな国籍の若手研究者が一堂に会して研究を行う若手研究者育成プログラムを2016年度から2018年度に開催し、それが結果的に本領域の国際的評価につながった。

上記以外にも、研究協定の締結や調査日程の調整、研究成果報告書の刊行など、国際活動支援班が果たした役割は大きく、活動目標を十分に達成できたと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果を発信する最終年度に開催予定であった2回の国際研究集会については、開催を断念せざるを得ない状況となったが、代替措置として、頻繁にメールやオンライン会議により中国ならびに諸外国の研究者と情報交換と成果共有を進めた。それが、『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（中村・劉（編）、雄山閣、2020年12月）、日中共同研究成果報告書I『中国江南の考古学』（中村慎一（編）、中国文明起源プロジェクト刊行、2021年3月）の出版、最終年度では、日中共同研究成果報告書『中国新石器時代文明の探求』（中村慎一（編）、中国文明起源プロジェクトおよび六一書房、2023年3月）の出版として結実した。

研究成果の概要（英文）： We held sessions in two international conferences over two fiscal years. Until FY2019, we invited several researchers from abroad to hold international symposia and lectures. We also published many papers in major international journals of various fields and played a major role in coordinating communication between researchers during the preparation process. Moreover, we carried out a development program for young researchers called "Taraosan Camp" from FY2016 to FY2018, and young researchers from Japan, China, USA, and others gathered at the Taraosan site and conducted research together. This program lead to an international recognition in this field.

Beside these activities, the International Activity Support Group played a significant role in concluding research agreements, coordinating research schedules, and publishing reports on research results, and the goals of the group activities were fully achieved.

研究分野：考古学

キーワード：考古学 良渚文化 稲作 中国文明 都市形成 新石器文化

1. 研究開始当初の背景

中国における農耕起源や文明起源の問題は、その世界史的重要性から、欧米の研究者も重大な関心を寄せてきた。ただし、発掘報告書や論文の大部分は中国語で執筆されるため、これまでは漢字に慣れ親しんだ日本人が優位な立場にあった。しかし、近年、欧米諸国に留学する中国人研究者が増加し、彼らの英語による論文執筆を通じて、欧米人研究者でも豊富な学術情報が利用できるようになった。

このような世界的な学術動向の転換期を迎え、本領域の研究成果も日中両国のみならず、英語圏を中心とする世界的な研究動向に位置付けていく必要がある。日本考古学の研究レベルは、その精緻かつ丁寧な分析方法に支えられ、世界的に見ても高水準にあると評価される。また、本領域はこれまで中国国内で実施されたことのない規模の多様な専門を持つ研究者が集うプロジェクトである。したがって、その研究成果を国際学会や英語論文作成、英文ウェブページ公開、国際的に著名な研究者の招聘と交流等の手段を通して海外に向けて発信することで、日本人研究者の中国文明研究に対する国際的評価を高め、結果的に我が国学術界の国際的プレゼンス向上にも寄与することが期待できる。

2. 研究の目的

国際活動支援班は、課題領域全体が中国その他の海外研究機関との活動をスムーズに行い、研究ネットワークを強化するため、それらのサポートを行う役割を担う。

3. 研究の方法

研究の方法は以下である。

本領域の立ち上げ当初に英文ウェブページを公開する。

国際学会でセッションを開催し、本領域の研究過程や成果について世界の第一線で活躍する考古学者と意見交換を行う。

海外から複数名の研究者を招聘し、国際シンポジウムや講演会を開催する。

各分野の主要雑誌に多くの英語論文を発表するようサポートする。

最終年度には、2回の国際研究集会を計画する。

《総合稲作文明学》シンポジウムで、金沢大学にて開催予定であり、日本国内の関連学界や一般市民への成果発表を企図する

新規科(学術変革領域研究(A))への橋渡しを兼ね、中国杭州で国際シンポジウム《中国文明の胎動》を開催する

4. 研究成果

これまでの繰越期間も含めた7年間の主な研究成果を3の研究の方法に従って挙げる。

本領域の立ち上げ当初に英文ウェブページを公開し、研究の目的や内容、活動の国際的な周知に努めた。

国際学会は、2016年度および2018年度に世界的な考古学会である Society for East Asian Archaeology (SEAA) や World Archaeological Congress (WAC) でセッションを開催し、本領域の研究過程や成果について世界の第一線で活躍する考古学者と意見交換を行った。

毎年、夏季と冬季を中心に海外から複数名の研究者を招聘し、国際シンポジウムや講演会を開催した。その数は優に10回を超える。

Scientific Reports、International Journal of Paleopathology、Archaeological Research in Asia、Archaeological and Anthropological Sciences をはじめ、各分野の主要雑誌に多くの英語論文を発表した。その多くは国際共著論文であり、論文作成過程における研究者間の調整等で国際活動支援班が大きな役割を果たした。

「田螺山キャンプ」の実施

その他、「田螺山キャンプ」を特筆に値する活動として挙げうる。「田螺山キャンプ」は日本を含むさまざまな国籍の若手研究者が一堂に会して自由な研究を行う若手研究者育成プロジェクトである。本領域では2016～2018年度にかけて毎年1回開催し、日本、中国、アメリカ、香港から計10名の若手研究者が参加した。その結果、若手研究者の育成のみならず、参加者を通して本領域の活動が国際的に周知され、海外のさまざまな研究者の知るところとなった。中には、本領域の活動内容を高く評価し、領域メンバーのもとでの研究活動を志望する大学院生も現れ

た。このように、「田螺山キャンプ」を通じた活動が本領域の国際的評価につながったことは予想外の収穫であった。

上記以外にも、中国側との研究協定の締結、領域メンバーの調査日程の調整など、国際活動支援班が果たした役割は大きい。縁の下の力持ちとして、当初計画した活動目標を十分に達成できたと考える。

国際研究集会の実施

最終年度に開催予定であった2回の国際研究集会については、中国側研究者多数を招き、良渚文明の終焉とその後の新石器時代晩期地方文明の形成に焦点を当てた内容を企画していた。しかし、COVID-19は収束の兆しを見せず、2020年度については5月、8月、1月の3回にわたり国際活動支援班会議（オンライン）を開催し、国際活動に関する計画とその実施について意見交換を行った。2021年度については4月と12月に国際活動支援班会議（オンライン）を開催し、国際活動に関する計画とその実施について意見交換を行った。特に、日中両国におけるCOVID-19の流行状況を見据えながら、実施可能な国際活動について随時検討を行った。しかし、最終年度の2022年度においても結果的に開催を断念せざるを得ない状況となった。

日中共同研究成果報告書の刊行

相互訪問が叶わなかった代替措置として、頻繁にメールやオンライン会議により中国ならびに諸外国の研究者と情報交換と成果共有を進めた。それが、『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』（中村・劉（編） 雄山閣、2020年12月）、日中共同研究成果報告書Ⅰ『中国江南の考古学』（中村慎一（編） 中国文明起源プロジェクト刊行、2021年3月）の出版、最終年度では、日中共同研究成果報告書Ⅱ『中国新石器時代文明の探求』（中村慎一（編） 中国文明起源プロジェクトおよび六一書房、2023年3月）の出版として結実した。

引用文献

- 中村慎一編（2020）『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』雄山閣
中村慎一編（2022）『中国江南の考古学』中国文明起源プロジェクト
中村慎一編（2023）『中国新石器時代文明の探求』六一書房



Hemudu & Liangzhu Culture

河姆渡と良渚

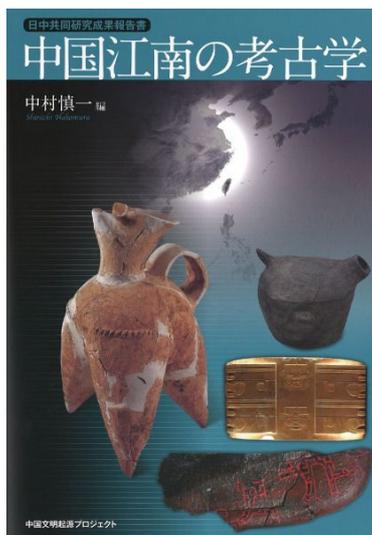
中国稲作文明の起源

中村慎一・劉斌 編

Reconstructing the historical processes through which a rice-based civilization arose in the Yangtze Valley in the Late Neolithic



雄山閣



日中共同研究成果報告書

中国江南の考古学

中村慎一 編

CHINA JIANGNAN ARCHAEOLOGY

中国文明起源プロジェクト



日中共同研究成果報告書Ⅱ

中国新石器時代文明の探求

中村慎一 編

六一書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計51件（うち査読付論文 27件 / うち国際共著 17件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 中村 慎一	4. 巻 1
2. 論文標題 中国稲作文明の形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 河姆渡と良渚	6. 最初と最後の頁 353 ~ 365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗, 中村 慎一	4. 巻 1
2. 論文標題 玉器生産からみた良渚文化期の社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 河姆渡と良渚	6. 最初と最後の頁 169 ~ 178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 米田 穰, 板橋 悠, 覚張 隆史	4. 巻 1
2. 論文標題 同位体生態学による長江下流域初期農耕民の生活と社会の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 河姆渡と良渚	6. 最初と最後の頁 305 ~ 316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka, K., Zhao, C., Wang, N., Kubota, S., Kanehara, M., Kamijo, N., Ishikawa, R., Tasaki, H., Kanehara, M., Liu, B., Chen, M., Nakamura, S., Udatsu, T., Wang, C.	4. 巻 2
2. 論文標題 Classification of archaic rice grains excavated at the Mojiaoshan site within the Liangzhu site complex reveals an Indica and Japonica chloroplast complex	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Food Production, Processing and Nutrition	6. 最初と最後の頁 1 ~ 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s43014-020-00028-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gakuhari, T., Nakagome, S., Rasmussen, S., Allentoft, M.E., Sato, T., Korneliusen, T., Chuinneagain, B.N., Matsumae, H., Koganebuchi, K., Schmidt, R., Mizushima, S., Kondo, O., Shigehara, N., Yoneda, M., Kimura, R., Ishida, H., et.al.	4. 巻 3
2. 論文標題 Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 1~40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-01162-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 板橋 悠, 覚張 隆史, 米田 穰	4. 巻 -
2. 論文標題 人骨穩定同位素分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬家浜	6. 最初と最後の頁 251~256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋 悠, 覚張 隆史, 米田 穰	4. 巻 -
2. 論文標題 sr同位素分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬家浜	6. 最初と最後の頁 263~264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 慎一	4. 巻 -
2. 論文標題 良渚文化晩期という時代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中国考古学会2019年度総会・大会予稿・要旨集	6. 最初と最後の頁 6~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗, 中村 慎一	4. 巻 -
2. 論文標題 長江中流域における玉器の生産と流通	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中国考古学会2019年度総会・大会予稿・要旨集	6. 最初と最後の頁 1~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 久保田 慎二, 宮田 佳樹, 小林 正史, 孫 国平, 王 永磊, 中村 慎一	4. 巻 145
2. 論文標題 河姆渡文化の副食調理土器 学際的手法からのアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 37~54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松永 篤知, 久保田 慎二, 中村 慎一	4. 巻 15
2. 論文標題 「稲作と中国文明」展における三次元海外遺物レプリカの展示	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金沢大学資料館紀要	6. 最初と最後の頁 21~29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗, 中村 慎	4. 巻 18
2. 論文標題 新石器時代後期の黄河流域における長江系玉器の拡散 山西省清涼寺墓地と陶寺墓地の分析を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 53~71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hosoya, L.A., Kobayashi, M., Kubota, S., Sun, G.	4. 巻 -
2. 論文標題 Rice and the Formation of Complex Society in East Asia: Reconstruction of Cooking through Pot Soot and Carbon Deposits Pattern Analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Far from the Hearth: Essays in Honour of Martin K. Jones	6. 最初と最後の頁 127 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17863/CAM.38306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 細谷 葵	4. 巻 230
2. 論文標題 コメと倉 パリ島稲作社会の民族考古学調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学 世界遺産パリの文化戦略～水稲文化と儀礼がつくる地域社会	6. 最初と最後の頁 141 ~ 193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okazaki, K., Takamuku, H., Yonemoto, S., Itahashi, Y., Gakuhari, T., Yoneda, M., Chen, J.	4. 巻 24
2. 論文標題 A paleopathological approach to early human adaptation for wet-rice agriculture: The first case of Neolithic spinal tuberculosis at the Yangtze River Delta of China	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Paleopathology	6. 最初と最後の頁 236 ~ 244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijpp.2019.01.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米田 穰	4. 巻 143
2. 論文標題 骨考古学からせまる社会の複雑化 - 人間行動生態学の視点 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 61 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋 悠, 米田 穰	4. 巻 714
2. 論文標題 人骨の化学分析による食と社会の復元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 5~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe, N., Nakamura, S., Liu, B., Wang, N.	4. 巻 11
2. 論文標題 Utilization of Structure from Motion for processing CORONA satellite images: Application to mapping and interpretation of archaeological features in Liangzhu Culture, China	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Archaeological Research in Asia	6. 最初と最後の頁 38~50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ara.2017.06.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hosoya, L.A., Kobayashi, M., Kubota, S., Sun, G.	4. 巻 -
2. 論文標題 Reconstruction of Cooking through Pot Soot and Burn-mark Pattern Analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 McDonald Institute Monograph	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 米田 穰	4. 巻 第3期
2. 論文標題 同位素生態学研究方法的展望-対長江下游早期農耕民生活与社会的復原研究-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 南方文物	6. 最初と最後の頁 10~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗	4. 巻 第4期
2. 論文標題 北米の博物館と博物館学 - カナダのロイヤルオンタリオ博物館を事例として -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 博物館学集報	6. 最初と最後の頁 43～47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗	4. 巻 第4期
2. 論文標題 中国初期国家形成過程中的牙璋及其意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中原文化研究	6. 最初と最後の頁 85～94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗, 中村 慎一, 孫 国平, 王 永磊	4. 巻 第17号
2. 論文標題 管玉類から見た中国東部地区の玉器生産技術変化とその意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 1～27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 秦 小麗	4. 巻 第5集
2. 論文標題 博物館学集報	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国における文化資源の保存と活用 高度経済成長期の文化資源保存と活用	6. 最初と最後の頁 45～50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 正史	4. 巻 第10号
2. 論文標題 ラオス・オイ族における米品種の早晩性、粘り気度、水田の水量の関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北陸学院大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 41～58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 慎二, 小林 正史, 宮田 佳樹, 孫 国平, 王 永磊, 中村 慎一	4. 巻 第17号
2. 論文標題 河姆渡文化における煮沸土器の使い分けと調理に関する学際的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 73～92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brozynska, M., Copetti, D., Furtado, A., Wing, R.A., Crayn, D., Fox, G., Ishikawa, R., Henry, R.J.	4. 巻 15
2. 論文標題 Sequencing of Australian wild rice genomes reveals ancestral relationships with domesticated rice Plant	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Plant Biotechnology Journal	6. 最初と最後の頁 765～774
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pbi.12674	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 中村 慎一, 劉 斌, 王 寧遠	4. 巻 64-2
2. 論文標題 中国浙江省良渚遺跡群	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 109～111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鈴木 三男, 孫 国平, 鄭 雲飛, 中村 慎一	4. 巻 26-2
2. 論文標題 中国浙江省田螺山遺跡から出土したイチョウの木製品	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 植生史研究	6. 最初と最後の頁 75 ~ 78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang, D., Nakamura, S.	4. 巻 66-1
2. 論文標題 Case Studies in Large-Scale Archaeological Site Conservation and Management in China: The Liangzhu, Yin Xu, and Han Yangling Sites	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 HISTORIA: OUSSETOES & DEBATES	6. 最初と最後の頁 113 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金原 正明, 金原 正子	4. 巻 4
2. 論文標題 纏向遺跡第78次調査溝1における花粉分析概要	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 纏向遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 48 ~ 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 慎一	4. 巻 141号
2. 論文標題 中国稲作文明の起源を探る	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本学会会議中部地区会議ニュース	6. 最初と最後の頁 6 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hosoya, L.A.	4. 巻
2. 論文標題 Traditional Raised-Floor Granary and Rice Production Cycle in Bali: Past, Present, and Future of Balinese Agriculture	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Alternative Crops and Cropping Systems	6. 最初と最後の頁 47～69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5772/62643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇田津 徹朗	4. 巻 第13集
2. 論文標題 両城鎮遺址生産遺存探查	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東方考古	6. 最初と最後の頁 113～133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Qin, X.	4. 巻 55 2
2. 論文標題 Turquoise Ornaments and Inlay Technology in Ancient China	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Asian Perspectives: the Journal of Archaeology for Asian and the Pacific	6. 最初と最後の頁 208～239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/asi.2016.0019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林 正史	4. 巻
2. 論文標題 蒸したウルチ米が主食となった理由	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本考古学協会第82回総会発表要旨	6. 最初と最後の頁 120～121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 正史	4. 巻
2. 論文標題 東北地方における縄文深鍋から弥生深鍋への調理方法の変化：東北日本の遠賀川系深鍋による炊飯方法の特徴	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本考古学協会2016年度弘前大会・第1分科会 研究報告資料集	6. 最初と最後の頁 111～151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 正史, 外山 政子, 北野 博司	4. 巻 96
2. 論文標題 ラオス・アタプー県オイ族の伝統的米作りの変容過程	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 71～88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa, R., Badenoch, N., Miyagi, K., Medoruma, K., Osada, T., Oonishi, M.	4. 巻 66
2. 論文標題 Multi-lineages of of Shiikuwasha (<i>Citrus depressa</i> Hayata) evaluated by using whole chloroplast genome sequences and its bio-diversity in Okinawa, Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Breeding Science	6. 最初と最後の頁 490～498
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1270/jsbbs.15151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Muto, C., Ishikawa, R., Olsen, K.M., Kawano, K., Bounphanousay, C., Match, T., Sato, Y-I.	4. 巻 66
2. 論文標題 The origin and diversification of wx allele of glutinous indica rice landraces through the traditional slash and burn system in northern Laos	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Breeding Science	6. 最初と最後の頁 580～590
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1270/jsbbs.16032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富山 慎二, 南 雅代, 中村 俊夫, 金原 正明	4. 巻 第72号
2. 論文標題 炭化物14C年代測定の前処理過程の科学的解明—和歌山県根来寺坊院跡から出土した炭化米の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 考古学と自然科学	6. 最初と最後の頁 45~61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 正史, 外山 政子	4. 巻 60
2. 論文標題 ラオス・オイ族における伝統的米品種の粘り気度の変化要因	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石川県考古学研究会会誌	6. 最初と最後の頁 15~36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦 小麗	4. 巻
2. 論文標題 二里頭文化時期的陶器拡散以及背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 玉器与王権的誕生 国際学会会議論文集	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 正史	4. 巻
2. 論文標題 弥生・古墳時代深鍋にみる炊飯用とオカズ用の分化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 安齋 正人編『理論考古学の実践』	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 慎一	4. 巻 -
2. 論文標題 良渚文化期の農業と良渚遺跡群	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 宇田津徹朗 編 『長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究』平成24年度～平成27年度科学研究費補助金（基盤研究（B）国際学術調査）成果報告書	6. 最初と最後の頁 1～4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇田津 徹朗, 浦谷 綾香	4. 巻 -
2. 論文標題 プラント・オパール分析法を用いた良渚遺跡群における水田遺構探査	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 宇田津徹朗 編 『長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究』平成24年度～平成27年度科学研究費補助金（基盤研究（B）国際学術調査）成果報告書	6. 最初と最後の頁 5～64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hao, Y., Akimoto, M., Kaewcheenchai, R., Sotowa, M., Ishii, T., Ishikawa, R.	4. 巻 90(5)
2. 論文標題 Inconsistent diversities between nuclear and plastid genomes of AA genome species in the genus <i>Oryza</i> .	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Genes Genetic Systems	6. 最初と最後の頁 269～281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1266/ggs.14-00063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 細谷 葵	4. 巻 138
2. 論文標題 先史時代の堅果類加工再考－世界的な比較研究をともなう民族考古学をめざして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 1～38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Qin, X.	4. 巻 55
2. 論文標題 Turquoise Ornaments and Inlay Technology in Ancient China	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Asian Perspectives: The Journal of Archaeology for Asia and the Pacific	6. 最初と最後の頁 1~39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Somedá, H., Gakuhari, T., Akai, J., Araki, Y., Kódera, T., Tsumatori, G., Kobayashi, T., Matunaga, S., Abe, S., Hashimoto, M., Saito, M., Yoneda, M., Ishida, H.	4. 巻 261
2. 論文標題 Trial application of oxygen and carbon isotope analysis in tooth enamel for identification of pos-war victims for discriminating between Japanese and US soldiers.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Forensic Science International	6. 最初と最後の頁 166.e1~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.forsciint.2016.02.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hosoya, L.A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Traditional Raised-Floor Granary and Rice Production Cycle in Bali: Past, Present, and Future of Balinese Agriculture	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Alternative Crops and Cropping Systems	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5772/62643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計125件(うち招待講演 13件/うち国際学会 42件)

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 新石器時代晩期における地方文明間の威信材交換
3. 学会等名 学術変革領域《中国文明起源》キックオフシンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 同位体分析から見たヒトとモノの動態復元
3. 学会等名 学術変革領域《中国文明起源》キックオフシンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 学際研究から探る中国稲作文明の起源
3. 学会等名 金沢大学超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 土器付着炭化物と人骨の同位体比の比較
3. 学会等名 第74回日本人類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 中国稲作文明の起源と展開 『水』をキーワードに
3. 学会等名 日本考古学協会第85回（2019年度）総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保 田慎二, 秦 小麗, 吉開 将人, 小柳 美樹, 楨林 啓介, 楊 平, 神谷 嘉美, 松永 篤知, 中村 慎一
2. 発表標題 長江下流域における物質文化の変遷と社会の複雑化
3. 学会等名 日本考古学協会第85回(2019年度)総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細谷 葵, 小林 正史, 庄田 慎矢, 西田 泰民, 村上 由美子, 大川 裕子
2. 発表標題 食からみる中国稲作社会の成立要因 - 化学分析と民族・文献調査から -
3. 学会等名 日本考古学協会第85回(2019年度)総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 慎一, 米田 穰
2. 発表標題 総合稲作文明学における骨考古学の成果とその考古学的意義
3. 学会等名 第73回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 長江デルタ地域の新石器時代における食の多様性
3. 学会等名 第73回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渋谷 綾子, 孫 国平, 劉 斌, 王 寧遠, 陳 傑, 宋 建, 岡崎 健治, 板橋 悠, 中村 慎一
2. 発表標題 人骨の歯石に残るデンプン粒からみた長江下流域新石器時代の植物食
3. 学会等名 第73回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoneda, M.
2. 発表標題 Adoption of rice farming by Yayoi culture of prehistoric Japan
3. 学会等名 First Annual Meeting of Chinese Diet Archaeology - Stable Isotope Analysis (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Itahashi, Y., Yoneda, M.
2. 発表標題 Reconstruction of animal utilization in prehistoric southern China by compound-specific isotope analysis of amino acids
3. 学会等名 The International Conference of Archaeology in South East Asia and Southern China (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoneda, M., Itahashi, Y., Gakhari, T., Okazaki, K.
2. 発表標題 Isotopic analysis of human remains from the Majiabang site
3. 学会等名 馬家浜文化學術研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 良渚文化晩期という時代
3. 学会等名 日本中国考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秦 小麗, 中村 慎一
2. 発表標題 長江中流域における玉器の生産と流通
3. 学会等名 日本中国考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田 慎二, 小林 正史, 宮田 佳樹, 鏡 百恵, 劉 斌, 王 寧遠, 陳 明輝, 中村 慎一
2. 発表標題 良渚遺跡群における煮沸土器の使い分け 卞家山・葡萄ハンの分析を中心に
3. 学会等名 日本中国考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田 幹, 榎林 啓介, 小柳 美樹, 田崎 博之, 中村 慎一
2. 発表標題 復元破土器の実験とその使用痕
3. 学会等名 日本中国考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 克典, 上條 信彦, 久保田 慎二, 石川 隆二, 田崎 博之, 金原 正明, 金原 美奈子, 劉 斌, 王 寧遠, 陳 明輝, 王 才林, 趙 春芳, 中村 慎一, 宇田津 徹朗
2. 発表標題 浙江省良渚遺跡群より出土したイネ種子のDNA分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上 由美子, 鈴木 三男, 浦 蓉子, 川崎 雄一郎, 鶴来 航介, 西原 和代, 山下 優介, 孫 国平, 中村 慎一
2. 発表標題 浙江省田螺山遺跡における木製品の用材傾向 クワ属の多用とその利用法
3. 学会等名 第34回日本植生史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaniya, Y., Honda, T., Liu, B., Wang, N., Sun, G., Nakamura, S.
2. 発表標題 Analysis of the lacquer ware excavated from the ruins of the Yangtze Valley in the Neolithic
3. 学会等名 22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis (PYR02018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 慎二, 小林 正史, 宮田 佳樹, 北野 博司, 劉 斌, 王 寧遠, 中村 慎一
2. 発表標題 良渚文化の蒸し調理と土器の使い分け 良渚遺跡群美人地遺跡を例として
3. 学会等名 日本中国考古学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷 綾子, 孫 国平, 劉 斌, 王 寧遠, 陳 傑, 宋 建, 岡崎 健治, 板橋 悠, 中村 慎一
2. 発表標題 歯石の残存デンプン粒を用いた長江下流域新石器時代の植物食の復元
3. 学会等名 第72回日本人類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷 綾子, 孫 国平, 劉 斌, 王 寧遠, 陳 傑, 宋 建, 岡崎 健治, 板橋 悠, 中村 慎一
2. 発表標題 人骨の歯石の残存デンプン粒からみた長江下流域新石器時代の植物食
3. 学会等名 考古学研究会第64回総会・研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上 由美子, 浦 蓉子, 西原 和代, 山下 優介, 川崎 雄一郎, 鶴来 航介, 孫 国平, 中村 慎一
2. 発表標題 中国新石器時代の木材加工にみる刃こぼれの痕跡ー浙江省田螺山遺跡出土材の検討から
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田 佳樹, 西田 泰民, 堀内 晶子, 吉田 邦夫, 中村 慎一
2. 発表標題 土器残存有機物を用いた古食性復元 田螺山遺跡を例として
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubota, S., Kobayashi, M., Miyata, Y., Sun, G., Wang, Y., Nakamura, S.
2. 発表標題 Rice Cooking Method in Hemudu Culture at the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyata, Y., Kubota, S., Kobayashi, M., Nishida, Y., Horiuchi, A., Miyauchi, N., Yoshida, K., Sun, G., Wang, Y., Nakamura, S.
2. 発表標題 Paleo diets reconstructed from food residue in pottery in Lower Yangtze area using lipid analysis and compounds-specific and bulk stable isotope composition
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shibutani, A., Liu, B., Wang, N., Chen, J., Song, J., Okazaki, K., Itahashi, Y., Nakamura, S.
2. 発表標題 Plant Food in the Neolithic Lower Yangtze Area, China from Starch Granules of Human Dental Calculus
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神谷 嘉美, 劉 斌, 王 寧遠, 中村 慎一
2. 発表標題 從漆膜構造看中国新石器時代的漆工藝
3. 学会等名 中国古代漆器國際學術檢討会・2018年中国文物学会漆器瑛瑯器專業委员会年会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 慎二, 小林 正史, 宮田 佳樹, 孫 国平, 王 寧遠, 陳 明輝, 王 永磊, 劉 斌, 中村 慎一
2. 発表標題 新石器時代長江下游の炊器利用与其演变
3. 学会等名 中国考古学研究・第2届中日論壇(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 若林 賢, 鶴野 愛美, 熊谷 真彦, 澤藤 りかい, 覚張 隆史, 稲田 健一, 鮎本 真友美, 梅崎 昌裕, 米田 穰, 植田 信太郎, 小川 元之, 太田 博樹
2. 発表標題 人糞および糞石からのDNA抽出および分析技術の改良
3. 学会等名 第72回日本人類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hosoya, L.A., Yang, P.
2. 発表標題 Ethnoarchaeology of Plant Food Usage and Cultivation in the Lower Yangtze Region
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hosoya, L.A.
2. 発表標題 Reconstructing Food Culture and the Society in Neolithic East Asia
3. 学会等名 The Frontiers of 'Social' Archaeobotany (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板橋 悠, 覚張 隆史, 菊地 大樹, 丸山 真史, 孫 国平, 中村 慎一, 米田 穰
2. 発表標題 酸素同位体比による長江下流域、田螺山遺跡への象牙製品の持ち込みの検証
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itahashi, Y., Gakuhari, T., Maruyama, M., Kikuchi, H., Sawada, J., Okazaki, K, Takamuku, H., Jiang, L., Sun, G., Wang, N., Liu, B., Nakamura, S., Yoneda, M.
2. 発表標題 Dietary shift of the Neolithic rice farmers at the Lower Yangtze River region elucidated by amino acid ^{15}N analysis
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoneda, M., Gakuhari, T., Itahashi, Y., Sun, G., Liu, B., Wang, N.
2. 発表標題 Oxygen isotope analysis of human and animal remains from the Neolithic site of the Lower Yangtze River region in light of human and object provenance
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 慎二, 小林 正史, 宮田 佳樹, 劉 斌, 王 寧遠, 陳 明輝, 中村 慎一
2. 発表標題 良渚文化における煮沸器の使い分けに関する初歩的考察
3. 学会等名 日本中国考古学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田 佳樹, 堀内 晶子, 西田 泰民, 吉田 邦夫, 孫 国平, 中村 慎一
2. 発表標題 田螺山遺跡出土土器残存有機物を用いた古食性復元
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田 佳樹, 久保田 慎二, 小林 正史, 堀内 晶子, 西田 泰民, 宮内 信雄, 吉田 邦夫, 孫 国平, 中村 慎一
2. 発表標題 中国新石器時代初期稲作遺構田螺山遺跡出土土器脂質分析による食性復元
3. 学会等名 日本第四紀学会2017年大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細谷 葵, Simon Kaner
2. 発表標題 プロダクティブな国際協働研究へ向けた日本考古学の発信
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第83回(2017年度)総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇田 津徹朗, 田崎 博之, 中村 慎一, 劉 斌, 王 寧遠, 鄭 雲飛
2. 発表標題 良渚遺跡群苟山地区の試掘調査から推定される水田稲作について
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田崎 博之, 宇田津 徹朗
2. 発表標題 長江下流域・良渚文化期における堆積環境の変化と埋没水田探査
3. 学会等名 日本植生学会第32回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板橋 悠, 覚張 隆史, 孫 国平, 菊地 大樹, 丸山 真史, 米田 穰, 中村 慎一
2. 発表標題 炭素・窒素安定同位体比分析による中国長江流域の大型哺乳類の種同定
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田 穰, 覚張 隆史, 板橋 悠
2. 発表標題 同位体生態学からみた長江下流域新石器時代の稲作農耕文化
3. 学会等名 日本植生学会第32回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板橋 悠, 覚張 隆史, 丸山 真史, 菊地 大樹, 澤田 純明, 岡崎 健二, 高椋 浩史, 孫 国平, 王 寧遠, 劉 斌, 中村 慎一, 米田 穰
2. 発表標題 食性復元に基づく長江下流域の新石器農耕民の水田漁撈経済の検証
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Qin, X.
2. 発表標題 The Dynamic relationship between South China and Vietnam in theChina early state formation period --Based on analysis of Yazhang, carnelian beads,Turquoise and seashells
3. 学会等名 The 16th Conference of European Association of Southeast Asian Archaeologists (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 中国文化遺産の調査方法と保存歷程
3. 学会等名 中国陝西省文物技術保護研究所シンポジウム『文化資源の調査方法と世界各国の比較研究』（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 玉器、トルコ石、メノウと海貝 - BC2000-1000 年之間的地域間交流
3. 学会等名 夏商時期玉器文化国際學術検討会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Qin, X.
2. 発表標題 Turquoise Ornaments and Inlay technology in Ancient Maya and China
3. 学会等名 Copan : A Comparatie Perspective Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 新石器時代後期の黄河流域における長江系玉器の拡散
3. 学会等名 日本中国考古学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 中国文化資源の保存と活用
3. 学会等名 愛媛大学アジア鉄文化研究センター・愛媛大学文学部考古研究室講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 伝統的な博物館コレクション研究、展示とフィールド調査 - カナダのロイヤルオンタリオ博物館の考古学研究と関連展示を事例として -
3. 学会等名 公開シンポジウム「文化遺産の発信地としての博物館」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田 佳樹, 久保田 慎二, 小林 正史
2. 発表標題 陶器脂質残留分析技術在考古学中的応用
3. 学会等名 華夏考古学術論壇 第四期 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林 正史
2. 発表標題 和食の成立過程：古代における飯用食器とオカズ・汁用食器の作り分け～
3. 学会等名 考古学研究会第63回総会・研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林 正史
2. 発表標題 弥生時代～古代の米飯の食べ方の変化
3. 学会等名 日本考古学協会第83回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林 正史
2. 発表標題 復元土器の水平割口の出現頻度による粘土紐接着強度の定量化
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保田 慎二, 小林 正史, 宮田 佳樹
2. 発表標題 煮るか炊くか - 田螺山遺跡のコメ調理 -
3. 学会等名 第43回金沢大学考古学大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴岡 優希, 石川 隆二
2. 発表標題 ヒシのゲノムサイズ測定と次世代シーケンサーからの分子マーカー設置と多様性評価への応用
3. 学会等名 第12回東北育種研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 覚張 隆史, 板橋 悠, 岡崎 健治, 高椋 浩史, 宋 建, 陳 傑, 孫 国平, 劉 斌, 米田 穰, 中村 慎一
2. 発表標題 新石器時代の長江下流域における移民率の評価
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田 純明, 佐伯 史子, 板橋 悠, 米田 穰, 覚張 隆史, 久保田 慎二, 王 冬冬, 呂 夢, 中村 慎一, 孫 国平, 黄 渭金
2. 発表標題 中国南部の田螺山・河姆渡遺跡から出土した初期新石器時代人骨群の古病理学的所見
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 覚張 隆史, 板橋 悠, 岡崎 健治, 高椋 浩史, 澤田 純明, 宋 建, 陳 傑, 黄 渭金, 孫 国平, 王 寧遠, 劉 斌, 米田 穰, 中村 慎一
2. 発表標題 新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性に関する研究
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakamura, S.
2. 発表標題 Kingdom of Jade : Reconsidering Liangzhu
3. 学会等名 Copan : A Comparative Perspective Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 稲作文明と植物利用
3. 学会等名 第32回日本植生史学会大会公開シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原 正明
2. 発表標題 栽培植物、農耕、環境をめぐる環境考古学手法の検討と新知見
3. 学会等名 日本考古学協会第83回 (2017年度) 総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原 正明, 岡田 憲一, 杉山 真二, 金原 正子
2. 発表標題 中国日本における初期水田の機能と環境、栽培植物
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木 智史, 阿部 善也, 巽 善信, 日野 宏, 藤原 郁代, 金原 正明
2. 発表標題 蛍光X線分析による天理参考館所蔵 成吉思皇帝聖旨牌の材質分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荻山 琴美, 金原 正明, 金原 裕美子, 赤津 將之
2. 発表標題 牽牛子塚古墳出土夾紵棺片の科学調査
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原 正明
2. 発表標題 古環境の変遷と動・植物利用の初段階
3. 学会等名 第32回日本植生史学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoneda M., Yamazaki K., Kisida K., Kikuchi, Y., Nasu, H.
2. 発表標題 Isotope ecology of ancient rice paddy of prehistoric Japan
3. 学会等名 The 10th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies. IsoEcol 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林 正史
2. 発表標題 弥生・古墳時代(相当期)の鍋釜からみた西日本と韓半島の間の調理方法の違い
3. 学会等名 考古学研究会第62回総会・研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林 正史
2. 発表標題 東北地方の初期水田稲作研究の進展
3. 学会等名 Anthropology of Japan in Japan
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 化学分析で読み解く古代人の食生活
3. 学会等名 第109回分子科学フォーラム市民公開講座(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原 正明, 金原 正子
2. 発表標題 糞便堆積と糞石の分析研究
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原 正明, 西田 巖, 金原 美奈子, 渡邊 英明
2. 発表標題 東名遺跡（縄文時代早期）における環境変遷と生業
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津 徹朗, 田崎 博之, 中村 慎一, 浦谷 綾香, 劉 斌, 王 寧遠, 鄭 雲飛
2. 発表標題 良渚遺跡群荀山地区における水田遺構探査
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津 徹朗, 田中 克典
2. 発表標題 イネプラント・オパール中に内在する遺伝情報抽出手法構築に向けた基礎的研究（第2報）
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林 正史, 久保 田慎二, 孫 国平, 王 永磊
2. 発表標題 竪穴建物の焼却と覆土での火焚き行為の理由
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Hosoya, L.A.
2 . 発表標題 Processing, Storage and Symbolism of Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of East Asia and USA
3 . 学会等名 The 7th Worldwide Conference of SEAA (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Yoneda, M., Kikuchi, H., Maruyama, M., Sun, G.
2 . 発表標題 Carbon and Nitrogen Isotope Analyses on the Neolithic Human, Animal and Plant Remains from the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China
3 . 学会等名 The 7th Worldwide Conference of SEAA (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Qin X.
2 . 発表標題 Inter-regional Relationships in the Hemudu Culture to Liangzhu Culture Period View from Distribution Pattern of Beads in East China
3 . 学会等名 The 7th Worldwide Conference of SEAA (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Kobayashi M., Kuboda S., Sun G., Wang Y.
2 . 発表標題 Cooking pottery use-wear analysis to reconstruct rice cooking methods of early rice farmers in Japan and Middle China
3 . 学会等名 The 7th Worldwide Conference of SEAA (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 中国稲作文明の起源を探る
3. 学会等名 日本学術会議中部地区会議学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hosoya, L.A.
2. 発表標題 Processing, Storage and Symbolism of Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of Japan and California, USA
3. 学会等名 17th Conference of International Working Group for Palaeoethnobotany (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 試論新石器時代黄河中游地区出土の長江系玉器
3. 学会等名 早期石城和文明化進程 中国陝西神木石ボウ遺址国際学術研討会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hosoya, L.A.
2. 発表標題 Theorization of Japanese archaeology: Is it possible? Is it needed?
3. 学会等名 International Symposium "Current debates in World Archaeology II (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 Rice Farming and Chinese Civilization: Establishing General Study of Rice-based Civilization
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hosoya, L.A.
2. 発表標題 Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of East Asia and USA
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Qin, X.
2. 発表標題 Jade Beads Production in East Region of China
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 最新骨化学によるヒトの生態復元
3. 学会等名 金沢大学公開講座「人類学と考古学の最前線～先端科学による新発見～」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 物質文化の変遷と社会の複雑化
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原 正明
2. 発表標題 古環境の変遷と動・植物利用の諸段階
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷 葵
2. 発表標題 民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津 徹朗
2. 発表標題 イネの栽培化と植物質食料資源の開発
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 高精度年代測定および稲作農耕文化の食生活・健康への影響評価
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰, 岸田 快生, 那須 浩郎, 菊地 有希子
2. 発表標題 同位体生態学による先史時代の農耕活動に関する基礎的研究
3. 学会等名 日本第四紀学会2016年大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 河姆渡文化時期的日本 - 概論縄文文化 -
3. 学会等名 河姆渡文化研究中心学術講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 人骨の最新の分析方法から個人にせまる
3. 学会等名 雄山閣百周年記念考古学シンポジウム「考古学100年学際研究のいま」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保田 慎二, 中村 慎一
2. 発表標題 中国初期稲作文化の様相
3. 学会等名 第二回文化財・科学技術研究講演会「考古学と先端科学が明かす縄文文化と中国新石器文化」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 板橋 悠, 孫 国平, 澤田 純明, 丸山 真史, 菊地 大樹, 中村 慎一, 米田 穰
2. 発表標題 アミノ酸窒素同位体比分析による中国、田螺山遺跡における初期稲作農耕民の食性
3. 学会等名 第70回日本人類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 骨から語る過去の食生態
3. 学会等名 第70回日本人類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林 正史
2. 発表標題 東北地方における縄文深鍋から弥生深鍋への調理方法の変化: 東北日本の遠賀川系深鍋による炊飯方法の特徴
3. 学会等名 日本考古学協会2016年度弘前大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 良渚都市文明の勃興と消滅
3. 学会等名 金沢大学文化資源学セミナー「文明と王権」公開講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 中国初期国家形成過程中的牙璋及其意義
3. 学会等名 東亜牙璋學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nakamura, S.
2. 発表標題 Living by the Waterside: Human Adaptation to Global Warming during the Holocene Climatic Optimum in China
3. 学会等名 The 16th World Lake Conference（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原 正明
2. 発表標題 環境を読み解く
3. 学会等名 東名遺跡シンポジウム2016縄文の奇跡！東名遺跡（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦 小麗, 中村 慎一, 孫 国平, 王 永磊
2. 発表標題 管珠類から見た中国東部地区の玉生産技術変化とその意義
3. 学会等名 日本中国考古学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保田 慎二, 小林 正史, 孫 国平, 王 永磊, 中村 慎一
2. 発表標題 スス・コゲからみた河姆渡文化における煮沸器の使用痕研究
3. 学会等名 日本中国考古学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 「魚米之郷」の考古学 - 浙江省田螺山遺跡の日中共同研究 -
3. 学会等名 企画展 「魚米之郷」の考古学 講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷 葵, 楊 平
2. 発表標題 食文化の現在と過去をつなぐ~稲作民の民族考古学
3. 学会等名 企画展 「魚米之郷」の考古学 講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nakamura, S.
2. 発表標題 Domestication of wetlands and the origin of rice cultivation in China.
3. 学会等名 “上山文化”命名十周年稲作農業起源国際学術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 与良渚遺址群相關的中日合作研究
3. 学会等名 紀念良渚遺址發現80周年学術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 骨の化学分析で見えてきた中国新石器時代の稲作農耕と雜穀文化
3. 学会等名 日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細谷 葵
2. 発表標題 中国初期稲作民が食べたもの：植物考古学と土器付着物分析から考える
3. 学会等名 日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 骨の化学分析で見えてきた中国新石器時代の稲作農耕と雑穀文化
3. 学会等名 日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稲作農耕民」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 総合稲作文明学が目指すもの
3. 学会等名 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成 考古学と関連科学の最前線」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原 正明
2. 発表標題 長江下流域の新石器時代における古環境と農耕の諸段階
3. 学会等名 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成 考古学と関連科学の最前線」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田 穰, 覚張 隆史, 板橋 悠
2. 発表標題 長江下流域における新石器時代の生活と社会 - 化学分析による最新研究 -
3. 学会等名 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成 - 考古学と関連科学の最前線 - 」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hosoya, L.A.
2. 発表標題 Feast as a Farming “Technique”: Ethnohistorical Case Studies from Amami Islands, Japan
3. 学会等名 Society for American Archaeology 2017 annual conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細谷 葵
2. 発表標題 野生植物食利用に関する民族調査の意義と課題 ～国際的な比較研究に向けて～
3. 学会等名 ミニシンポジウム「中国と日本の食の伝統」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦 小麗
2. 発表標題 二里頭時代の地域間動態関係とその背景
3. 学会等名 玉器と王権の誕生 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 物質文化の変遷と社会の複雑化
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原 正明
2. 発表標題 古環境の変遷と動・植物利用の諸段階
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷 葵
2. 発表標題 民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津 徹朗
2. 発表標題 イネの栽培化と植物質食料資源の開発
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 高精度年代測定および稲作農耕文化の食生活・健康への影響評価
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 中村 慎一編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 305
3. 書名 中国新石器時代文明の探求	

1. 著者名 中村 慎一編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 245
3. 書名 中国江南の考古学	

1. 著者名 中村 慎一, 劉 斌編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 380
3. 書名 河姆渡と良渚	

1. 著者名 秦小麗, 中村 慎一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢大学国際文化資源学研究センター	5. 総ページ数 74
3. 書名 黄河流域におけるトルコ石製品の生産と流通(金沢大学文化資源学研究Vol.19)	

1. 著者名 秦 小麗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 278
3. 書名 中国初期国家形成の考古学的研究 - 土器からのアプローチ	

1. 著者名 小林 正史編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 290
3. 書名 モノと技術の古代史 陶芸編	

1. 著者名 Itoh, Y., Takemura, K., Takada, H., Kusumoto, S., Haraguchi, T., Nakamura, T., Kanehara, M.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Science Publishing Group	5. 総ページ数 128
3. 書名 Dolphin Bones in Mawaki Achaological Site: Holocene Paleoenvironmental Change in Far East	

1. 著者名 袁 広闊, 秦 小麗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 科学出版社	5. 総ページ数 266
3. 書名 早商城市文明的形成与発展	

〔産業財産権〕

〔その他〕

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究 稲作と中国文明 総合稲作文明学の新構築 HP
<http://www.inasaku-w3-kanazawa-u.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細谷 葵 (HOSOYA Aoi) (40455233)	金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員准教授 (13301)	
研究分担者	米田 穰 (YONEDA Minoru) (30280712)	東京大学・総合研究博物館・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計14件

国際研究集会 総合稲作文明学シンポジウム 触発する文明 長江と黄河	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 総合稲作文明学成果報告会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 骨考古分科会シンポジウム「長江デルタ稲作農耕民の骨考古学」第73回日本人類学会大会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 日本考古学協会第85回(2019年度)総会 セッション4「稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 -」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 SEAA Conference Nanjing 2018, Session 23: The Formation Process of a Rice-Based Civilization in the Chinese Neolithic 1: From the Scope of Food Selection, Processing	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 SEAA Conference Nanjing 2018, The Formation Process of a Rice-Based Civilization in the Chinese Neolithic2: Food Exploitation Strategy, Domestication and Rice Paddy Field	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 SEAA Conference Nanjing 2018, Session 34: The Formation Process of a Rice-Based Civilization in the Chinese Neolithic 3: Urbanization and Movements of People and Material	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 Faunal utilization during the Prehistoric age in the Pan-East China Sea region	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 稲作と中国文明	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 シンポジウム「アフロユーラシアの考古植物学」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 総合稲作文明学シンポジウム「稲作文明から中国文明へ」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 7th Worldwide Conference of SEAA (Session: Food and society in Prehistoric East Asia: New Frontiers of Transdisciplinary Approaches towards Ancient Culinary Culture)	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 8th World Archaeological Congress (Session: Early rice farming and civilization in East Asia: towards a productive integration of international and cross-disciplinary research agendas)	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム	開催年 2016年～2016年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	浙江省文物考古研究所	中国社会科学院考古研究所	南京博物院	他5機関
米国	ハーバード大学	スタンフォード大学	ワシントン州立大学	
英国	ヨーク大学	ロンドン大学		
タイ	ウボン大学			
インドネシア	インドネシア科学院LIPi			
オーストラリア	クイーンズランド大学			